

地(知)の拠点 推進事業ニュース

富山国際大学 地(知)の拠点事業推進室
Tel.076-483-8000(内線:2044)

課題解決（文理融合）型インターンシップに本学学生が参加

課題解決(文理融合)型インターンシップ(下段参照)に参加し、日本海ガス(株)で実習を体験した、内山隆太郎さん(現代社会・3年)から寄せられた感想をご紹介します。

内山さんは、「大口顧客へのエネルギー利用状況診断に基づく省エネ提案の作成」を課題として、8月22日～9月21日まで10回の実習で、下記の体験をしました。

- ガス基礎知識の説明、工場見学
- 省エネ・計測についての説明
- ショールーム Prego の見学
- 契約先 A 社に計測装置設定/データ回収(集計)/エコステーション月例点検/炉の周りの温度測定・まとめ
- 契約先 B 社に蒸気ボイラ計測のための現地調査/計測機器の設置/データ回収(集計)
- 契約先 C 社のガス開閉札の交換
- 契約先 D 社の温度、排ガス測定
- 保安レベル講習会に参加 他

普段の大学生活では絶対に得ることができない貴重な体験ができました。実際に現場実習したことで、企業についてより詳しく知るとともに、実習を通して企業が利益のみを追求しているのではなく、地域環境の保全のための活動も真摯に行っていることを知ることができました。

社員の方々は皆様親切で優しく接して下さり、自分もこのような会社で働きたいと思いました。富山県立大学の大学院生との文理融合型研修でしたが、先輩は手際が良く、常に私をサポートして下さり、先輩の偉大さを感じるとともに、力量の差も痛感しました。

大学の講義でもビジネスマナーを学んできましたが、今回のインターンシップではビジネスメールの重要性を知るなど実践的なビジネスマナーを身につけるとともに、学生と社会人では価値観や責任感が大きく異なることに気づかされました。

就職活動が本格化するこれからは、私も意識を学生モードから社会人モードへ切り替えていかなくてはならないと思いました。

社員の方々と交流する中で、学生には自由に使える時間が沢山あることを教えられ、大学在学中に長期の旅行や海外研修などをしておくべきだと改めて感じました。



課題解決（文理融合）型インターンシップとは

ALL富山COC+事業(裏面)の一環として、本学は、富山大学、富山県立大学とともに、昨年からは、新たなインターンシップの試みを始めました。従来のインターンシップは、基本的には夏季休暇中の1週間から10日間、職場実習を経験しますが、この試みはあらかじめ企業から課題を与えられ、長期間にわたってその解決策を取りまとめるものです。本学は、富山県立大学と協働し「文理融合型」インターンシップとして取り組んでいます。文系、理系それぞれをベースにした学生同士が力を合わせて解決策を探求していこうというものです。

今年度は、内山さんの他に、現在(株)インテックで3名の学生が実習中です!

富山市の学生行動調査に協力しました

富山市中心市街地活性化推進課より協力依頼があった「学生行動調査」が、10月1日～31日の1か月間実施されました。「おでかけっち」という端末を毎日身につけ、携帯した人の「歩数と健康状態」「端末機の携行時間データ」を取得し、富山市のまちづくりや教育・研究機関による学術研究、各種統計調査などの基礎資料として幅広く活用されるものです。

本学からは、現代社会学部から53名、子ども育成学部から35名（富山短期大学から27名）の学生が協力し、終了後、富山市からクオカードが贈呈されました。


調査用端末機「おでかけっち」概要

■調査端末機「おでかけっち」の製作

- GPS、歩数計測機能、歩行促進アプリを内蔵した小型端末機「おでかけっち」を、京都大学を中心としたコンソーシアムと共同開発し2,000個製作。(平成27年度地域再生戦略交付金を活用)
- 端末機を高齢者等に携帯してもらい、交通行動やまちなかでの移動目的等を分析。
- GIS(地理情報システム)や公共交通ICカード、各種統計データと組み合わせることで、都市・交通・健康・福祉など他分野の施策立案に活用。

「おでかけっち」の概要

- 縦68mm×横49mm×厚さ12mm、重さは約50g
- GPS、歩数計測、歩行促進アプリを内蔵したツールを開発
- 高齢者でも持ち歩きやすいポケットサイズ



【おでかけっちで取得できるデータ】

- GPSデータ(行動軌跡データ: 10秒ごとの緯度・経度、時間)
- 歩数データ(歩数、時間)
- 健康状態の回答データ(1良好、2まあまあ、3よくない)
- 店舗訪問データ

■「おでかけっち」でのデータ活用

データ収集

- 【蓄積データ】
 - GPS(位置情報)データ
 - 歩数データ
 - 健康状態データ
 - など
- +
- 【既存データ】
 - 利用者の属性(性別、年代、居住地域など)データ
 - 公共交通ICカードデータ
 - など


↓

データ分析・検証

- 駅やバス停などへのアクセス距離や時間の検証
- 中心市街地での滞在時間や立ち寄り店舗
- 歩行支援アプリの効果
- 外出と歩数の相関
- GISへの展開

データ活用による施策立案の例

- まちなかの休憩所の効果的な配置
- バス停等における待合環境の向上
- 歩行環境の改善
- コミュニティ交流空間の整備
- 高齢者等の外出をさらに促す施策の立案



バス停環境の改善 歩行補助車の適正配置 街区公園を活用したコミュニティガーデン

～ ご協力いただいた方の感想 ～

Aさん
時々忘れてしまうこともあったが、比較的いつも鞆に入れて持ち歩いていた。

Bさん
正直、家に忘れることが多くて、あまり持ち歩かなかった…ごめんなさい！

Cさん
毎日忘れないように、気をつけていた。アルバイトや土日の外出にも携行していた。

Dさん
「おでかけっち」を身につけて結構色んな所へ行きましたよ！

**** 1か月間のご協力 ならびに端末のご返却、ありがとうございました ****

地(知)の拠点推進事業(COC/COC+)とは

本学は、平成22年以降「大学生の就業力支援事業および支援推進プログラム」および「産業界のニーズに対応した教育改善・充実整備事業」に5年間に渡って連続して選定されました。その延長上で、平成27年度には、富山大学を申請校とする「地(知)の拠点大学における地方創生事業(COC+)」の「ALL富山COC+事業」に参加校として加わると同時に、「とやま地域創生人材育成プログラム」によって、特に優れた取組として認められた大学等8校の一つとして、平成27年度「地(知)の拠点大学」(COC)の認定を受けました。